令和５年度おおさか農政アクションプラン評価・点検部会　議事概要

日　　時　令和５年７月１８日（火）　１４：００～１６：００

場　　所　大阪府咲洲庁舎５０階　迎賓会議室

出席委員　増田部会長、藤田委員、髙井委員

内　容

**１　事務局説明**

**■「おおさか農政アクションプラン」昨年度の取組み実績の評価**

**■今年度からの新規事業および重点事業**

**２　委員の主な意見**

**■「おおさか農政アクションプラン」の昨年度の取組み実績の評価**

**【しごと】**

〇育成対象農業者の項目は、品目別売り上げがあると分かりやすく、より分析しやすい。

〇今後資料３の項目（１）（２）（５）の目標については、数が増えただけでなく、経営の中身の把握が必要となる。

〇どの作物でスマート農業の導入がされているかもデータを把握する必要がある。

〇スマート農業においてハード機材の導入が難しい大阪府のような場合は、労務管理システムのような導入が進められないかとの話が本プラン作成時にあった。そのあたりも把握できないか。

**【くらし】**

〇大阪産（もん）の魅力向上に関するKPIはマッチングの件数で設定したが、商行為に繋がった件数に関する目標数値が必要ではないか。

〇流通関係では中間的な指標を取っても良いかもしれない。

〇脱炭素の指標が多様化されているが、KPIを設定していない。有機農産物以外にも多数指標はあるが、今回の達成目標で評価ができていない。今後進めていく中で脱炭素の指標についても検討が必要ではないか。

**【地域】**

〇地域計画を作るとともに、計画の実現には仕組みとして農空間づくり協議会が不可欠という形で進めていってほしい。

〇府有施設での農業体験者や各SNSのフォロワー数、農に関するイベント参加者などが実態と異なるのではないかと感じる。各市町村実施の農業祭への参加者となるともっと多いだろうから、数値設定や集計方法について考え直さないといけないのでは。

〇府の中央卸売市場では、大学とも連携した産地訪問や援農活動を行い、将来的な農的関係人口を増やすような取り組みをしている。府有施設での農業体験者の数値にこの取組みの参加人数が入っていないのであれば、数値に含めてもよいのではないか。

**■今年度からの新規事業および重点事業**

**【担い手の確保・育成】**

〇早期退職者が、健康維持も兼ねて農業を始めたいという話をよく聞く。その方々で構成したチームを作り、繁忙期の農家を回って農作業を手伝う取組みがあればいいのでは。

〇農業マッチング制度の登録農業者は増やすべき。援農は、民間のほうが先行しているように思うので、そこを上手につなぐ仕組みができたら。

〇行政が関わる必要があるか、などの問題はあるだろうが、府単独で進めるのは限界があると感じる。援農に関する情報収集をしてもらったらいいと思う。

〇和歌山県白浜町では、ワーケーションの取組みの中で援農などもしている。農業公園は温泉施設もあるので、企業のワーケーションで大阪南部の農業とセットで体験してもらえるのでは。しっかりした施設整備をしているので、そのあたりも一度検討してほしい。

〇今年貝塚市が観光ビジョンを策定し、食べるところや楽しめるところ、特に体験型のところが着目されている。最初はマイクロツーリズムなどの地域密着型で展開したいとのことだったので、そのあたりも把握しておいてほしい。

**【大阪府立花の文化園　今年度からの取組み】**

〇今年から農に関する視点ができたということなので、うまく農業体験へつながっていくと良い。

〇府がやるのであれば、どうぶつ導入はアニマルウェルフェアの観点を入れてはどうか。世界はアニマルウェルフェアのほうに向いているので、そういう視点も必要かと思う。

〇木根館と奥河内くろまろの郷と花の文化園が連携できないか、というのがくろまろの郷設置時の課題だった。花の文化園単独ではなく、３施設で連携し１日楽しんでもらえるようなエリア展開を考えてもらうとよいと思う。

**【地域計画策定等の支援】**

〇非常に難しいと思っている。現在の国の農政はすべて基礎自治体がすることになっているが、府では、市町村で完結して担い手調整はできず、市域を超えて調整が必要だと思う。

〇所有者が整理できないことも多く、地理情報と所有権は必ずしも一致しないだろうが、そのあたりは国で議論されているのか。所有権者の決定でないといけないとなると限界があるので、所有形態と利用形態と分けた事業計画を作るべき。

〇府は平成の大合併をしておらず、細かい単位の市町村になっている。府の広域行政の役割が非常に大事だと思うので担い手確保等、広域行政としてしっかりカバーしてほしい。

〇生産緑地の所有者を特定し意向確認するのに、丸３年かかっている。それが市街化調整区域全体となると膨大になるため厳しいのでは。

〇地域計画について、地域ごとの課題が見えれば、地域計画まで早期に作れるところと、そうでないところのメリハリをつけたらよいと思う。生産緑地の際と同じようなことをしていては体がもたない。所有者がわからず白地になるところは仕方がないと思う。

〇現況把握は非常に重要な作業であり大きな転換期と考える。ぜひ頑張って地域計画を作成してほしい。

**３　部会長による意見整理**

**【しごと】**

〇新規就農者の確保育成については、府と市町村の取り組みとでうまく連携や情報交換も行い、追跡も必要と考える。

〇スマート農業も大事だが、これだけ風水害が厳しくなってくるとハウスの強靭化の対策も重要。

**【くらし】**

〇大阪で万博が行われるので、具体的な調達にどう繋げていくかも含めて関係部局と連携していかなければならない。

**【地域】**

〇地域計画の策定には実効性のあるものとなるように、「計画＝推進体制」がセットというスタンスで取り組む必要がある。

〇農を知り、農に参画する機会はたくさんある。マルシェやイベントの開催場所といった府内での情報が一覧を作成して活用できれば良いと考える。